

製鉄体験へ汗流し炉造り

大東・ホッパの会 中学生も協力

地元に伝わるたたら製鉄を保存、継承する活動を続ける一関市大東町の「ホッパの会」(菊池文悦会長)は28日、同町大原の砂鉄川最上流部にある砂鉄川たたら製鉄学習館でたたら製鉄に使用する炉造りを行った。

ホッパの会は、旧内野小
学校時代の1999年から
たたら製鉄の体験学習を支
援。体験学習は、統合した
大原小の6年生が総合学習
の一環で続けている。

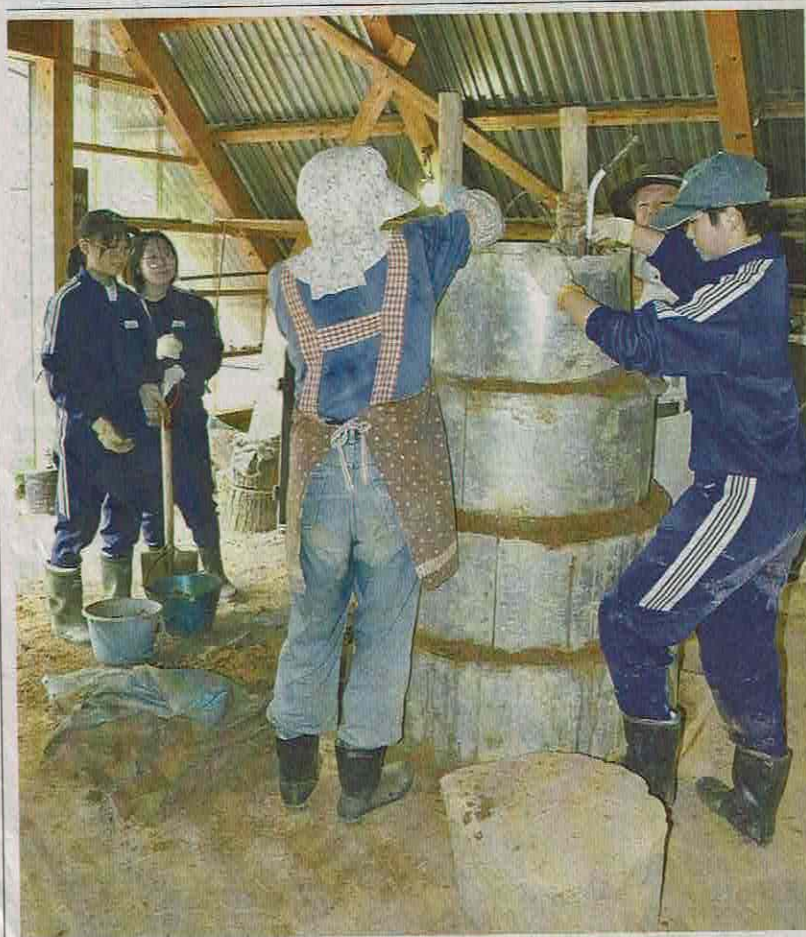
炉造りは地元の中高校生が
協力しており、今年も会員
7人と地元の協力者のほ
か、大原小時代に鉄造りを
体験した大東中学校の及川

美涼さん、菅原結依さん、
菅原愛里さん(いずれも3
年)と菅原正浩校長が参加。
赤土に切りわらを混ぜて水
を加え、足で踏んでこね合
わせて作った粘土を型枠に
投入。棒で突き固めるなど
の作業を繰り返して、屋内外
に高さ約1・2メートルの二つの
炉を造った。
3年連続で炉造りに協力

した及川さんは「自分たちが体験した鉄作りを大原小の後輩にも体験してもらうため協力した。鉄作りの伝統を受け継いでいってほしい」と話し、作業に汗を流していた。

ホッパの会の菊池会長は「今年も大東中学生に協力をいただきありがたい。本番でたたくさんの鉄が取ればいい」と期待していた。

同日造った炉は1週間後に型枠を取り外し、1カ月ほど乾燥させながらたたいて固める。たたら製鉄は9月18日に予定している。



たたら製鉄で使う炉造りの作業に汗を流す参加者